

第56回病診連携委員会要録

日時 平成26年8月25日(月) 午後7時45分
場所 浪速区医師会 会議室
出席者 浪速区医師会 : 9名
南医師会 : 2名
愛染橋病院 : 3名
大野記念病院 : 2名
浪速生野病院 : 2名
四天王寺病院 : 1名
多根総合病院 : 1名
富永病院 : 2名
大和中央病院 : 3名
千本病院 : 1名
日生病院 : 2名
浪速区役所 : 2名
地域包括支援センター : 1名
居宅介護支援事業者連絡会 : 1名
浪速区医師会事務局 : 1名

今回は南医師会、浪速区区役所、日生病院、富永病院より参加があった。

議題

1. 第55病診連携委員会報告について(資料1)
前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。
2. ブルーカード事例検討等報告について(大和中央病院)
現時点ではブルーカードを登録されている患者さんが搬送されたことは無いとのこと。登録数は18~9件であり、その登録医師は浪速区医師会に限られている。
今後、西成区医師会の先生が参加していただくことを期待する。
3. 病診連携委員会のアンケート結果について(資料2)
《地域連携室に対する質問》
質問① 今年度より地域包括ケア病棟が出来ましたが、貴病院ではどのようなスタンスでおられますか?
大半が予定しておらず、検討中と答えた施設もあった。
検討している具体案として療養病棟からの変更を検討しているとの回答があった。
質問② 現在、慢性期患者(リハ回復期)に対して、他の病院との連携はスムーズですか?
大半がスムーズに行けているとの回答を得た。
質問③ 開業医と連携している患者が突然来なくなった場合、何か対策はとっていますか?
基本的には主治医にゆだねている部分が多く、地域連携室が把握することは困難な様子。一部施設では紹介元に連絡をとるとのこと。
《開業医への質問》
質問① 貴院で、DM、がん治療中、高血圧、慢性肝炎、心疾患(心不全、虚血性心疾患)等の通常は継続通院が考えられる患者さんが突然来なくなった場合、何か対策はとっていますか?そのようなチェックはされていますか?
特に対策を取っていないと返答した施設もあるが、医師またはスタッフが確認の電話を入れることもあるとのこと。家族、知人、友人に聞くこともあるとの回答もあった。
質問② また、疾患別に患者さんのデータを整理されたことはありますか?

大半が行っていないとのことだが、一部特定の疾患に関して電子カルテなどを利用して整理しているとの回答もあった。

《包括ケアマネへの質問》

質問① 通院（介護を必要としそうな区民、あるいは認知症等）が必要であるケースでも医療拒否される区民に対して何か対策はとっておりますか？

（居宅）

十分な説明を、時には家族とともに説得して、通院を促している。どうしても拒絶する場合には往診を検討することもある。

（地域包括支援センター）

ひたすら関わりを持ちながら、受診の介入を見計らっている。またセルフネグレクトのケースのケースは区保健福祉と連携することも検討しているとのこと。

質問② また、家族と本人の間に介護上の方針が大きく異なる場合、ケアカンファレンスを開くなど対策はとっておりますか？

（居宅）

カンファレンス後、それでも方針の違いがある場合には個別聞き取りをしているとのこと

（地域包括支援センター）

できるだけ本人の意思を尊重してもらうように家族に接している。あくまでも介護保険のサービスは本人決定が必要であるため。しかし認知症の場合は家族、後見人の決定が必要にはなるとの回答。

4. 地域包括ケアにおける区としての取り組みについて（浪速区役所）

本年6月以降の改定以降、区としても地域包括ケアの取り組みを行っている。

大阪市としては来年度から始まる介護事業計画に踏み込んでいく予定。しかしまだ具体的なことは決まっておらず、浪速区の特性、ニーズを盛り込んだ内容にしていきたいと考えているとのこと。（補足として久保田医師より、地域包括ケアシステムの5つの方針として、医療との連携強化、介護サービスの充実強化、予防の推進、多様な生活支援サービスの確保、高齢者の住まいの整備が挙げられる。これらが今後重要とは言われているものの具体的にはまだまだ話が進んでいないのが現状であるとのこと）

住まいの整備に関しては75歳以上の名簿登録が開始されているが、いまだ4割程度しか登録できていない。地域とかかわりのない方の登録が難しいとのこと。基本的には希望者が登録できるので現実的にはまだ難しい問題がある。

5. 日生病院の連携病院参加について

持ち帰って検討したところ、一次連携病院として参加することとなったが、まずは受診歴のある方で、内科系でスタートしたいとのこと。問題がなければ10月1日から開始したく思っているとのこと。これに関して当医師会としてもしっかりと広報をしていき間違いがないようにしていきたいと返答。もし問題があるケースがある場合には登録時に日生病院からかかりつけ医に指摘するようにはしていただきたいと追記。

6. その他

（1）ブルーカードの動向

ブルーカードの登録件数（浪速区内の医師より450枚、他地区の医師から101枚、使用状況 681件（浪速区）、35件（他地区）8月1日からのカード動向30件（入院2件、その他受診のみ4件、新規8件）。

ブルーカードは今後地域包括ケア病棟との関連もあり、重要な位置づけとなっている。他医師会にも広げていただきたく思うばかりである。

次回会議予定 平成26年10月27日（月）午後7時45分～